

Ledya Home Doctor

レディアホームドクター

診察室

下肢静脈瘤りゅうの治療法

「脚の静脈が浮き出ています。夕方になるとだるく重くて歩くのが大義になります。さらに夜寝ているとふくらはぎが引きつって痛くてたまりません。思いきって手術を受けてみようと考えています」(55歳女性)とのご相談を受けました。

静脈の弁が壊れ、血液が逆流

原因として、大伏在静脈あるいは小伏在静脈の弁が閉まらなくなっていることが考えられます。下肢にはふくらはぎの筋肉の中に深部静脈と筋肉の外側にある皮下静脈があります。この静脈のつなぎ目には弁があり、逆流を防いでくれています。この弁が閉まらなくなると、ちょうど大雨で決壊した川の堤防から水が流れ出て洪水を起こすように、血液があふれ出て脚にたまり、静脈が膨らむだけでなく、いろいろな症状が出てきます。

ストリッピング手術

この状態を改善するには、壊れた堤防(弁)からあふれ出ている水(血液)を止めることが一番大切です。具体的には、弁が壊れている部位の静脈を縛り、さらに血液が逆流し

ている静脈を抜き取る手術(ストリッピング手術)が標準的です。最近では日帰り治療を行う医療機関がありますので、日常生活への影響も少なくなっています。

血管内治療

そのほかに注目されている治療法は「血管内治療」です。これには血管内レーザー治療、ラジオ波治療、泡沫硬化療法があります。わが国では、まだ一般的ではありませんが、欧米ではストリッピング手術に代わる治療法の地位を築き始めています。静脈の内側からレーザー波、ラジオ波、硬化剤を用いて内皮細胞を破壊し、静脈を閉塞させて血液の流れを止める方法です。

それぞれに利点と欠点があります。当ク

リニックで下肢静脈瘤の治療後の患者満足度のアンケート調査をストリッピング手術と血管内レーザー治療で行ったところ、どちらの治療法でも治療後いったん悪化したQOLスコアが4、12、24週後には改善しました。特に血管内レーザー治療では4週以後は治療前より有意差をもって改善しました。ストリッピング手術では12週後に改善してきましたが、その他の時点では術前QOLスコアと統計学的な差は認められませんでした。

相談者と同じような悩みをお持ちの方は、まずは下肢静脈瘤を専門に治療している医療機関を受診して、詳しく説明を受けてみられてはいかがでしょうか？



解説医師

諸國 眞太郎 先生

医療法人社団操仁会理事長。岡山第一病院 下肢静脈瘤日帰りセンター長(1)。諸國眞太郎クリニック院長(2)。1981年岡山大学医学部卒業。末梢動脈疾患、下肢静脈瘤など血管外科に携わる。

- (1) 岡山市高屋343 TEL.086-272-4088
- (2) 岡山市錦町6-17 OWLSTYLE錦町2 4階 TEL.086-224-1313

URL <http://www.varix.jp> E-mail laser@varix.jp